

## えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ③4

屋号を住吉屋と称し、酒造業を営み、4代目から大庄屋を務めた。周英はその5代目に当たる。

江戸時代、四国遍路が庶民に広まる背景の一つに案内記・絵図類の出版がある。本図は江戸中期に大坂において木版墨刷りで刊行され、現存する四国遍路絵図の中で最も古いものとして知られている。

作者の細田周英は但馬国竹野轟村（現在の兵庫県豊岡市竹野町）の出身で、本名は平四郎、画号は周英。大坂の狩野派絵師吉村周山の弟子であった。細田家は

大きさは縦約60<sup>センチ</sup>、横95<sup>センチ</sup>。本州の中国地方から四国を眺めたように、現在の地図感覚からすると南北が逆に描かれている。デフォ

内容となっている。

本図の意義は四国遍路の全体像を初めて詳細に視覚化したことにある。

本図が刊行された江戸時代中期には、八十八カ所の札所や番外霊場、それらをつなぐ遍路道、海の玄関口である港や航路などが既に整備され、四国内外から多くの遍路が四国霊場を巡礼するようになった。

## 全体像を詳細に視覚化

その後、本図を皮切りに多くの四国遍路絵図が作られていったが、いずれの図よりも本図は詳しく、遍路絵図の決定版として、江戸時代に盛行した四国遍路の実態を今に伝えている。

## 四国徧礼絵図

へんろ



細田周英が手掛けた「四国徧礼(へんろ)絵図」  
＝1763年版、県歴史文化博物館蔵

(専門学委員・今村賢司)

△月2回掲載します▽